

日々英語に触れるのが 上達のコツ

会議通訳

石川純子さん

Sumiko Ishikawa



経歴

静岡県清水区生まれ。県立清水東高校卒業。お茶の水女子大学文教育学部卒業。日野自動車株式会社入社。野村コンピューターシステム(現、野村総合研究所)、日本たばこ産業株式会社、NHK衛星放送などの派遣通訳を経て、フリーの通訳に。

現在、官公庁やグローバル企業の国際会議などの会議通訳として活躍中。清水で開かれたマグロ資源管理の国際会議の通訳を務めたほか、米軍など多国籍軍によるイラク侵攻、いわゆる湾岸戦争時にはNHK衛星放送で記者会見の様態などを同時通訳した。

転機は大学1年の秋

高い技能が求められる通訳。なかでも、やりとりなどを適度に区切りながら通訳する逐次通訳や同時通訳をこなす、会議通訳にはより高度な技能が要求される。「小学6年の時にたまたま目にした雑誌で通訳の仕事を知り、『通訳っていいな』と漠然と憧れを持ったんですね。中学に入学してからは、テキストを買ってきてNHKラジオの基礎英語を毎日聴いていました」。

通訳志望を真面目に考え始めたのは大学1年の秋から。「日本で初めて開催された東京サミットで同時通訳をされた大学の先輩の講義を受講し、忘れかけていた通訳への夢に再び目覚めました」。

大学の2年から英会話学校に1年半、それが終わると通訳養成の専門学校と、二足のわらじを履いて大学を卒業した。「通訳養成学校は就職して社会人になった後も続け、トータルで6、7年通いました」。結婚を機に勤めていた会社を退職。現

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

在はフリーの通訳として公的団体や企業のさまざまな国際会議などで活躍する。英語力上達のコツを尋ねると「例えば30分でもいいですから2か国語放送を毎日聴くとか、日々何かしらの形で英語に触れることが大事だと思います。英語力を積み上げて力を落とさないようにする努力ですね」。

格好よくて華やかな職業だが、事前に渡された資料読みに実際の仕事の何倍もの時間を費やしたり、「自宅に段ボール箱でどさどさ資料が届き、一枚ずつ資料をめくりながら、いつ終わるんだろうって泣きたくなるときもあります」。知られざる苦勞もあるのだ。

運転しない人の視点で

「実家は清水区を中心街から少し離れているんですが、私の所に限らず、田舎だと車が足代わり。どういう解決策があるかわからないですが、運転しない人、できない人の視点で施策を考え、取り組んでいただけると嬉しいですね」。田舎での住民サービスの維持や魅力をどう打ち出していくか、高齢化が進む中で深刻な課題だ。毎年、静岡市「ふるさと納税」のお礼品を楽しみにしているという石川さん。「今年はツナ缶にしました。サイトを開いたら一番最初に出てきたので、これは運命だなと思って決めました」と満足げだ。

(文・写真…長田義明)